

# 12の能力要素のリーダーチャートで成長を客観化。 活動と成長の記録Ⅱプログレスシートは 頑張った証し

## 社会人基礎力が「興動館教育プログラム」を後押し

広島経済大学は、地方の社会科学系大学の人材育成のあり方を検討し、地域との連携を強く意識した、「社会人基礎力」を育成するカリキュラムを数年前から始めていました。それが、「興動館教育プログラム」(P438参照)です。

このプログラムでは、「社会人基礎力」を大学独自の4つの力「元気力」「企画力」「行動力」「共生力」からなる「人間力」で表現していましたが、平成18年に公表された「社会人基礎力」の「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの力が、同校の4つの力で示している領域と同じものを指しており、かつ、「社会人基礎力」で明示化された3つの力、12の能力要素が、能力定義としてわかりやすく、活用しやすいことから、

「興動館教育プログラム」に「社会人基礎力」の定義を取り入れることにしました。つまり、3つの力、12の能力要素を、育成すべき能力であると明示し意識化を促すとともに、自己評価、他者評価、相互評価などに組み込み、学生が自分で自分の行動を振り返り、成長を促すツールにしようとしたのです。

大学独自の「人間力」を「社会人基礎力」と連動させたことは、「興動館教育プログラム」が、社会の要請にかなっていることを示し、一方で、「社会人基礎力」を評価に導入することによって学生のさらなる成長を促したという事実は、「社会人基礎力」にあまり関心なかった教員にも「興動館教育プログラム」への理解を促し、自らの授業で、学生の能力育成をより深く考えてもらうには有効でした。

「社会人基礎力」育成を既に行っている大学が、評価部分を強化し、育成プログラムの進化と学内理解を進めた例として、紹介します。

人間力と社会人基礎力のつながり

「人間力」の4つの力	社会人基礎力の12の能力要素
元気力	主体性
行動力	働きかけ力
	実行力
企画力	課題発見力
	計画力
	創造力
共生力	発信力
	傾聴力
	柔軟性
	状況把握力
	規律性
	ストレスコントロール力

資料提供 広島経済大学

「興動館教育プログラム」の評価・振り返りには、3つのポイントがあります。1つは、評価の定量化を目指した点。2つめが学生同士の相互評価を積極的に取り入れた点。そして、3つめがプログレスシートの活用を目指した点です。



## 評価の定量化で能力を可視化

「興動館教育プログラム」では、当初から受講した学生の自己評価を行っていましたが、記述による振り返りだけであり、「プログラムをさらに進化させるためには、科目やプロジェクトを通して学生にどのような力がどれだけ付いたかを測る評価システムが必要ではないか」との問題意識が生まれていました。

そこで、12の能力要素が明示されている「社会人基礎力」を導入し、12それぞれについて、その力がない「レベル0」から社会人レベルの「レベル3」までの4段階に設定した評価指標「人間力マップ」(p380参照)を作り、評価システムを作っていました。

ポイントは、レベルの設定において、「社会人基礎力」の能力要素を、同校の教育目標・達成目標と関連させ、具体的な行動と結び付けて示したことです。例えば、「社会人基礎力」の「働きかけ力」について、レベル0は「他者への積極的な働きかけは苦手・経験もない」、レベル1は「他者に相談することの重要性や利点がわかる、相談できる」、レベル3は「フィールドワーク等での問題解決にあたり、計画の実行のために周囲を巻き込み、解決策を提案したり実際に解決できる」といった活動場面を想定したレベルを設定し、学生が行動イメージを付けられるようにしました。

学生は、4段階のレベルが設定されたレベル基準表「人間力マップ」を参照しながら、実施期間の事前・中間・事後の3回、振り返りの評価シート「プログレスシート」に自分のレベルと、判断した理由を記入します。

興動館の友松修課長は、「『人間力マップ』によって、学生は漠然とした概念ではなく、社会ではどのような力が求められているか、そして現在の自分はこのレベルにあるかを客観的に認識できるようになりました」と話しています。

同校では、評価シートに評価レベルの変化をリーダーチャートで示すなど、学生個人へのフィードバックや、学生全体の能力の把握を行うとともに、個々の「興動館科目」「興動館プロジェクト」間での比較を行い、プログラムの改善につなげようとしています。

## 学生同士の相互評価でチーム力も高める

「興動館プロジェクト」では、中間・事後の振り返りの際に、教職員のコーディネーターを囲んで、プロジェクト参加メンバー3〜4人による相互評価を行いました。プロジェクトにおいて、学生が活動に主体的にコミットしていくためには、チームメンバーとの連携が重要になってきます。そのため、活動の振り返りをメンバーで共有し、お互いの気付きからチーム活動が活性化されるように、同じプロジェクトのメンバーによるグループ面談を導入したのです。

それは、本人が気付いていない強み、弱みを相互に指摘し、アドバイスし合う貴重な機会になりました。同じ活動をしていても、ものの見方が違うことがわかったり、仲間の知らない一面が見えたりといった気付きもありました。また、チーム意識が芽生えたりするなどの利点もありました。

この相互評価で重要な役割を果たすのがコーディネーターです。「興動館プロジェクト」には、各チームに1人、または複数人の教職員がコーディネーターとして配置され、プロ

興動館プロジェクトの振り返り活動の流れ

	自己評価	他者評価
事前	事前評価シート記入	
中間	中間評価シート記入	・教職員評価（中間評価シート記入） ・学生同士の相互評価
事後	事後評価シート記入	・教職員評価（事後評価シート記入） ・学生同士の相互評価 ・企業・団体等の外部評価（チーム評価）

資料提供 広島経済大学

プロジェクトの相談役となります。ときには、プロジェクト以外のこと、勉強、進路、ときに恋愛の相談にも乗りました。そうしたコーディネーターが同席し、じっくり話を聞いてもらえるからこそ、学生は安心して心を開いて面談に臨むことができるのです。

その他の評価としては、教職員やコーディネーター、企業・団体などによる他者評価があります。教職員やコーディネーターは、「人間力マップ」をもとに、学生の意識や行動を観察(モニタリング)し、「教職員・コーディネーターの印象」として4段階で評価します。さらに、学生の自己評価に対してアドバイスのコメントを記入し、フィードバックします。

また協力企業および団体等の場合は、学生が記入する評価シートとは別に、企業・団体など外部評価者用のシート（p382参照）を用意し、プロジェクト終了後にチームとしての評価をお願いしました。チームとしての目標達成や活動への取り組みを評価、身に付いた「社会人基礎力」を指摘していただき、具体的なアドバイスを書いてもらいます。

## プログレスシートで頑張った自分をアピール

「プログレスシート」とは、学習や活動を通して、どのように「社会人基礎力」を発揮できたか、高めることができたか、自己評価を学習内容、活動内容などともに記録するもので、それは、学生の成長の証しであり、学生自身の成果を示すこととなります。就職活動などでも活用できるように、他人に提示できる形を取っている場合が多いようです。

広島経済大学における「プログレスシート」では、「興動館教育プログラム」の科目ごと、プロジェクトごとで、学生の3回分の自己評価を記載しています。さらに、その自己評価をリーダーチャート化し、学生一人ひとりにフィードバックし、学生の成長が一目でわかるようにしました。「プログレスシート」は、興動館のプロジェクトや科目での学生が頑張ってきた証しとなり、自信を持たせることにもつながります（p383参照）。

ちなみに、「興動館教育プログラム」は、ユニークな存在として地域では知られていたので、学生が就職活動の際、付録資料としてこのプログレスシートを出したところ、面接で話が盛り上がり、見事その企業に内定した学生もいたそうです。また、企業に、大学が個々の授業活動でしっかり人を育てていることを認めさせていくのにも有効になると考えられます。

『「プログレスシート」は他の授業でも有効に使えると思います。本学では、以前から基礎ゼミで『夢チャレンジシート』を導入し、入学時に、過去の自分と現在の自分の興味ややりたいことなどを記入し、学年が上がるたびに、1年間で自分がしてきたことなどについて記入させて、卒業後の進路やキャリア観を深めさせています。将来的には、『夢チャレンジシート』と『プログレスシート』を融合させ、それを用いて『興動館教育プログラム』と他の授業、クラブ活動、アルバイトなど、大学生活の全てについて、どこで何をしたことによって、『人間力』＝『社会人基礎力』のうちどんな力が伸びたか、将来のどんな夢が芽生えたかを記録する仕組みを作る、ということもできると思います』（友松氏）

まずは、3年後を目指して、大学におけるさまざまなプログラムにおいて「社会人基礎力」を用いた振り返りを行い、プログレスシートを学生一人ひとりに渡す計画を進めているということです。



興動館プロジェクト 事後評価シート(企業・団体等外部評価者用)

Header information table including name (氏名), date (記入日), organization (企業・団体・役職), project name (プロジェクト名), and project goal (プロジェクト目標).

Introductory text explaining the purpose of the evaluation and the organization's commitment to safety and community support.

1. 全体としてのプロジェクトの目標は達成できたと感じられますか。(該当するもの一つに○)

2. 全体としてプロジェクトチームの活動への取り組み姿勢をどう感じられましたか。(該当するもの一つに○)

3. 全体としてプロジェクトチームの活動プロセス(計画～実行～評価～改善)をどう感じられましたか。

4. このプロジェクトを通して、参加した学生は「社会人基礎力」(※裏面参照ください)で答す、以下のどんな知識やスキルを身につけることが必要または重要だと思われるか。(該当に○ 複数回答可)

5. このプロジェクトに参加した学生の活動を通じて、今後、学生は「社会人基礎力」で示す、以下のどんな知識やスキルを身につけることが必要または重要だと思われるか。(該当に○ 複数回答可)

6. 今後、プロジェクトを通して学生に与えてみたい課題やテーマがあればお聞かせください。その他、本学、興動館に対してのご要望や感想などご自由に記述ください。

興動館プロジェクト<プロジェクト参加と活動記録シート>(プログラズシート)

Main evaluation form containing a table for tracking activities, a radar chart for 'Social Basic Skills', and detailed text boxes for 'Project Description' and 'Reflection'.